

◆地域活動

うるま市天願小学校における漁業士出前授業の支援

水産海洋技術センター 秋田雄一

1 目的

与那城町漁協の前門、仲嶺、玉城漁業士は、うるま市立天願小学校から依頼を受け、小学3年生を対象とした社会科の授業において地域の水産業について講演することとなった。授業のテーマは、児童が住んでいる市町村の1次産業について学習するものでありうるま市は、本県におけるモズクの最大産地であることから、モズク養殖業を扱うこととなった。モズク養殖業について生産者が小学生を対象に授業をすることで、地域の水産業に対する理解が深まり、将来の担い手確保や地元産水産物の消費拡大につながる可能性が期待される。そこで当職は、漁業士らが円滑な授業を進行できるよう、授業で使用する資料の作成や、学校側との事前調整及び当日の進行について支援した。

2 方法

出前授業にあたっては、事前に学校側と授業の内容や、使用する機材・教室について調整したほか、児童の理解度について確認した。この際に、当職から電子黒板（図1）を活用してパワーポイントの映像資料を用いて説明する形式をとることを提案した。

また、学校側から小学校3年生の社会科教科書のコピーを提供いただき、児童の学習内容や理解度について、講義する内容のレベルを合わせられるようにした。

授業資料の作成にあたっては、主に前門漁業士と内容を打ち合わせ、モズク養殖漁業の

年間スケジュールやその魅力、漁業士らが漁業に従事することとなったきっかけや、地域での清掃活動などのほか、漁業生産の場である海を大切にする気持ちなどが伝えられるよう資料作りを進めることとした。資料作成にあたっては、与那城町漁協大城参事から漁業士らの活動状況の写真を提供いただいた。



図1 電子黒板を用いて資料の説明をする仲嶺、玉城、前門漁業士

3 結果

天願小学校での出前授業を、令和6年10月17日に、小学3年生約80名を対象に実施した。授業では、電子黒板に映した資料を仲嶺漁業士が中心に説明し、随時前門、玉城漁業士が補足をした（図1）。

また、電子黒板による資料説明のほか、仲嶺漁業士が、海の中ではフィンを履いて泳ぐのではなく、鍬をたくさんつけて雨靴で歩いて作業をする説明をし、前門・玉城漁業士が網を展開する作業を実演して見せた（図2）。

児童らは、真剣に説明を聞き、質疑では途

中で打ち切るほどたくさんの質問が寄せられていた。児童からは、(3名の漁業士に対して)モズクはどれくらい好きか、モズク料理のメニューや、おいしい食べ方など、食品としてのモズクに関する質問が多く挙げられた。また教諭からは、与那城町漁協におけるモズク養殖生産者数の推移や、今期の収穫量といった質問も挙げられていた。これらの質問に対し、漁業士からは、それぞれのモズクの食べ方(カップ麺にモズクを足して食べる、など)を紹介したほか、生産者数や生産量については、大城参事から説明した。

4 考察

今回支援した出前授業では、授業を実施する漁業士側に「こういう内容を児童に伝えたい」という具体的なビジョンがあったため資料作成を支援しやすかった。また、当日の進行についても、漁業士が積極的に務め、総じて自発的な取り組みであった。また、現地にモズク網を持ち込んで児童に見てもらうことで、写真からでは伝わらない養殖網の大きさなどを実感してもらうことができたと考えられる。さらに、今回作成した授業資料

は、電子ファイルとして漁協に提供しているため、今後同様な出前授業の要望を受けた際も、普及員の支援は必要なく、漁業士と漁協のみで対応可能である。

今回の支援では、事前の準備ができていたことと、前述のように漁業士の主体性が高かったため、特段改善が必要と思われる事項はなかったが、同様な授業を実施する際は、対象の児童の学年に合わせて資料の内容や文言、漢字の使用について調整するといった工夫が必要であろう。



図2 前門、玉城漁業士による養殖網展開実演の様子